



産業廃棄物処理業ヒヤリハット 企業における具体的取組事例



株式会社(株) 中部クリーン

安全衛生情報では会員各社の社内における安全衛生の具体的な取組事例をご紹介します。

今回ご協力いただきました会員企業は、昭和56年(株)中部クリーンを設立、代表取締役社長として柘植司郎氏が就任。令和3年10月に創立40周年を迎え、創業以来変わらぬ『全ての企業活動を通じて継続的な環境状況の悪化を防ぐことを使命とする』の経営理念は、令和元年4月に二代目代表取締役社長に就任された柘植章仁氏に引き継がれた。現在、各企業の生産活動を支えるべく、産業廃棄物処理業者(収集・運搬)だからこそその観点から、取引先様の特殊洗浄に特化し安全な操業を支える同社の安全衛生への取組について柘植社長にお話を伺いました。

開口一番、柘植社長は「うちは産業廃棄物の収集・運搬ですが、収集・運搬を行う上で車両・機器等の洗浄、回収先の企業様の設備機器等の高圧洗浄や薬品洗浄等の作業は欠かせません。それは廃棄物には多種多様な種類があり、排出事業者様から提供されたWDS (Waste Data Sheet: 廃棄物データシート) 及びSDS (Safety Data Sheet: 安全データシート) の情報を基に、いかに安全に収集・運搬をしていくかを考えるうえで、弊社の特殊洗浄の業務は欠くべからざる、安全な作業を行うための職分です。弊社は産業廃棄物処理業務と特殊洗浄の二本柱で、環境とものづくりの根底を支える、という自負がありますので、安全衛生への取組にはなにより力を注いでいます。」と語られました。

社内安全会議

◎新入社員安全衛生教育

作業に関する危険項目と安全対策の再確認

- ①高圧洗浄作業においては、適切な保護具の着装と、送水及び停止時の作業員間の合図の徹底



産業廃棄物収集・運搬、特殊洗浄等の関連許可証等



取材にご協力いただきました(株)中部クリーンの柘植社長

- ②酸欠及び有毒ガス発生環境においては、有資格者による計測器測定を実施し、防毒マスクのマスクは用途に合わせ、吸引缶は必ず新品を使用
- ③バキューム車による回収時においては、他社等の事故事例を事前確認し、作業における「慣れ」を改め、適切な保護具の着装と指差呼称取扱廃棄物の有害性について認識しておく。

◎新型コロナウイルスへの対策

業務形態が取引先様へ出向く業務のため、リモート対応はできないので厚生労働省の推奨する対策項目を実施

- ・毎日の検温
- ・次亜塩素水の消毒、手洗い励行
- ・マスク配布
- ・取引様等の感染者数の動向を情報共有
- ・取引様等の指針を遵守

※その時々により国の推奨する指針に準ずる。

◎熱中症への対策

- ①熱中症は、気温だけではなく湿度や輻射熱（日差しの強さ）、気流（風）にも注意する。重度の場合、死に至ることがある、と全員が認識すること。
- ②社内における熱中症対策は、朝のKYミーティングで、作業内容の危険と思われる要項について関係者全員が把握。各自が当日の体調を見極め、無理をしない、させないを徹底する。

◎産業洗浄技能士講習

同社にインストラクター資格^{*1}保有者が在籍しているため、講師となって講習会を行う。

・学科

高圧洗浄作業に対する安全意識、保護具の重要性、作業方法の留意点、異常時の対応

・実技

ガン洗浄、ノズル配管洗浄
(模擬訓練)



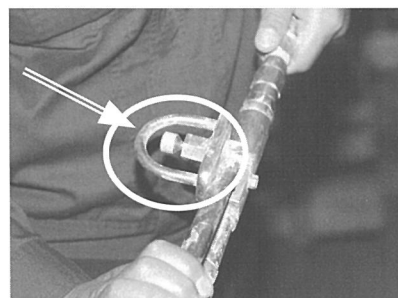
^{*1} 特殊洗浄の業務に特化していることもあり、産業洗浄技能検定の取得、インストラクター資格取得を推奨し、洗浄作業のスキル向上と安全対策全般を推進

◎作業時における対策例

バキューム車の作業で、廃液排出時の漏洩対策として、誤作動を避けるため、操作レバーが固定できるようなロックを自社で製作し装着した。



高圧洗浄ガンの誤射を防止するため、レバーロックを自社で製作し装着した。



緊急時対応訓練実施

◎緊急時対応マニュアル作成

- 現場作業中、廃棄物運搬中に災害が発生したとき、どのような対応をすれば良いのかをマニュアル化
- ・災害の項目は、設備機器等、車両、交通事故、火災、自然災害の影響等によるものなど、カテゴリごとに細かく手順を指示
 - ・緊急連絡網を作成し、速やかに関係部署に連絡し素早く現場の対応を行う。

◎自然災害への対策

同社は新川の堤防近くに立地されていることから、平成12年9月の東海豪雨の際、社屋玄関扉のドアノブの高さまで浸水しました。以降、自然災害への対策を強化し、大規模災害時において車両の提供等の要請に対応できるよう、業務継続計画の策定を目指しています。



大型特殊車両は、同社社屋がゼロメートル地帯であることから大雨警報時等、他の駐車場所に速やかに移動して車両を安全保管し、急な災害対応の依頼に応えられる万全の体制をとっています。

安全衛生は会社の基軸

私は迷うことなくこの仕事を父から引き継ぎました。特殊洗浄の技術にこだわりを持つのは、うちのようによく特殊な業務に対応する会社が少ないからです。

取引先様にはものづくり企業が多く、洗浄する物によって配慮を要する場合があります。特殊洗浄は危険を伴う作業もあります。洗浄作業工程は、使用機材から着工手順等に至るまで、綿密にお客様と打ち合わせを重ね作業指示書を作成して遵守しています。

それゆえ、これまで培った弊社の技術は、日本の生産業の根底を支えているという誇りと、産業廃棄物処理業務も然り、資源循環を含めた社会貢献へのやりがいはいは全社員の共通認識でもあります。

協会においては令和3年度まで愛産協の安全衛生委員を担わせていただき、安全衛生会議において業界の職場災害の状況を知り意識がさらに高まりました。

今後も災害事故ゼロを目指し、安全衛生に関わる資格取得と社内啓発を推進してまいります。

代表取締役社長 柘植章仁